

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 5 月 11 日

評価対象事業	教育	-	25	吉屋信子記念館管理運営事業				☐ 法定受託事務	
所管課	生涯学習課				評価者	生涯学習課長 飯田 拓也			
一般	会計	款	55	項	20	目	5		
総合計画上の位置付け	分野名	生涯学習			施策の方針名		生涯学習環境の整備・充実		

1 事業の目的

対象	市民等	意図	吉屋信子文学の業績をしのび、その文学を永久に保存し後世に伝えるとともに、市民の文化教養の向上を図るため。
効果	生涯学習施設としての市民等の学習の場として活用する。吉屋信子の文学及び業績を広く市民に伝える。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	吉屋信子記念館の維持・修繕、一般公開、施設貸出	吉屋信子記念館の維持・修繕、一般公開、施設貸出	吉屋信子記念館の維持・修繕、一般公開、施設貸出
予算額（千円）	3,036	4,945	
国県支出金			
地方債			
その他	54	918	
一般財源	2,982	4,027	0
当初人員配置数	0.7	0.7	0.0
人件費（千円）	0	0	0
事業実績	吉屋信子記念館の維持・修繕、一般公開、施設貸出		
決算額（千円）	2,917		
国県支出金			
地方債			
その他	50		
一般財源	2,867	0	0
人員配置実績数	0.7	0.0	0.0
人件費（千円）	0	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	吉屋信子記念館開館日数	日	300	7	254		
活1	実績につながる活動	春・秋の一般公開の実施、学習施設としての貸し出しの実施				2,917		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・HP等を通じて一般公開の周知をしたことで、市内外問わず、多くの方に来館していただいた。 ・吉屋信子記念館を適切に維持・保存し、安全に利用できるよう、建物の修繕や庭の手入れが必要な状態である。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	利用者満足度	%	80	7	未実施			1
成2	来館者数	人	2,229	7	2,284			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	一般公開時に自由記載で感想等を記入できるようになっているが、満足度を数値で集計することができていない状態である。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	満足度を集計できていないため、利用者のニーズ等を把握するため使用感や効果的な周知方法について利用者の声を集める必要がある。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	一般公開の際の周知が進んだことから、多くの方に来館していただくことができた。今後は、アンケート等により利用者・来館者の声を集めながら、より多くの市民に吉屋信子氏の文学及び施設を伝えるための仕組みを検討していく必要がある。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出していない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性		受益者負担	☒ 導入済	☐ 導入予定	☐ 導入できない
		評価実施年度の方向性	⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→ ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 事業へ統合
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☐ ⑤ 予算規模は現状維持とする ☒ ⑥ 予算規模は拡大する ☐ ⑦ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		一部解決	施設の一部を修繕したが、年々老朽化が進んでいるため、継続して修繕が必要な状況である。	
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たな課題あり	施設をこれまで保存・活用してきた意義とともに、社会教育施設としてどのような活用を目指していくのかというあり方から議論し、保存活用計画づくりに向けた検討が必要である。	
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新規事業の必要性あり	施設の維持管理を本格的に進めるためには、国庫補助の検討など新たな財源確保に向けた検討が必要である。	
	総評	施設の老朽化が進んでいることから、本格的な活用を行うためには耐震補強等を含め長期的な視点をもって維持修繕を行っていく必要がある。また、今後も多くの市民に吉屋信子氏の文学及び施設を伝えていくため、施設の保存・活用についても計画的に検討していく必要がある。			上位施策への寄与度 A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	比較対象なし								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		同等の規模・機能を有する施設がないため。							